

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢ひてエ

雑報 緑文

No. 690 増刊
2024年11月刊

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 「Springスプリング」ほか 2
- お便りから 6
- メール希望の方からのメッセージ 17
- 山仕事(10月大平) 23
- け・い・じ・ば・ん 26



泉ゆきをはじめ山頭火
(日本習字普及協会)

10月末日現在の
会員数184名

メール配信の方には
今号から送付を中止
しています。

題字: 故佐村隆英和尚(千葉県長柄町本光寺住職)
力ト: 故泉ゆきをさん(にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リングラフ RZ 330

※この号の切手はライ・花。

山仕事(10月、大平)

10月23日(水)。ほんだけ出る時は晴れ間もあったが、行く手には暗雲が。いつものくせで少し早く家を出る。果たして、市川駅で人身事故があり、船橋ざいのかほど停車。それでも、いつものごとく間に合った。

敷地駅で正士、久米、若林さんに迎えられる。正士さんは、このところ通り気味のことだったが、見た目は変らない。

雨のため、作業はなし。その代わり大切な話し合いがあった。正士さんからの提起で、体調が悪くなってきたので、今後のことを相談したいといふ。いつまでも元気でいてほしいのは皆同じだが、いつかに備えてだ。

はじめに正士さんから体調の報告があった。体重が減り、体が重くふらつくことが多くなった。立ちくらみがあり、息苦しさも感じるといふ。

その上で、今後どうするかといふ相談に移った。結論的な部分だけ記す。

- 猫の手クラブの活動は続ける。その場合、当地大平(おいたいら)では、正士さんの作業は無くなり、近隣の数戸の手伝いは希望があれば継続する。
- その場合、どこを拠点とするか。久米さん、竹中さんの居る隣りの森町薄場を拠点にさせていただく。
- 最大の問題は宿泊。これは久米さんが引き受けくださることになった。面倒なことを承諾していただき、感謝します。
- これまで、寄附や作業の礼を積み立て、猫の手基金としてきたが、この際正士さんが管理していた基金を猫の手メンバーに移管する。
- チェンサーや刈払機などは、正士さんの物と猫の手基金で購入した品とを合わせて使用してきたが、正士さんに仕分けしてもらい、その跡がくれば薄場で保管してもらう。
- 近隣の手伝いについては正士さんが意向をきいてつないでくれていたが、今後は猫の手クラブが直接連絡をとるよう、正士さんから伝えてもらう。

話し合いを終え、いつものように東江さんと久米さんが調理してくれた夕食を、おめでたし交えさせていただく。

(夕) 刺身(本マグロ、タコに竹中さん提供のアジとタイ)、サンマ塩焼き(ぼくねり年ぶり)、紀文はんやんのピカタ、小松菜のシーチキン和え、しやしのキムチ、ハスとゴボウのきんぴら、そして、さうめんを久米さんのかえしとだしていただく。

ぼくは、夕方に引き続き、久いぶりに客間で寝る。

10月24日(木)、晴。早朝いつものように毎日のコタツ(電源オフ)に足をつ。こみ新聞を読んでいると、足首のあたりで「なんだか動くものがある。足を出してみると、なんとムカデ。(図は、現寸大)」
危うく咬まれるところだった。

この日から、ごはんは浅井春夫さんが送ってくれた、北魚沼産のコシヒカリ。今年、正士さんの玄米は大不作で収量は半分、欠良米も多いという。そのせいか、とてもおいしかったよ。浅井さん、10月は猫の手に参加する予定だったが、9月からせんそく気味で来られず。20年間、新潟百人町の町会長を続け、疲れがたまつんだろう。ほちほち休んで、一緒に温泉に行こうよ。

毎回は記さないが、朝食はいつも原田さんが6:30に起きて用意してくれる。そして、毎日、原江さんが山形の大豆トラストから送ってくれている納豆と、若林さんがとり寄せてくれる鹿の子(小豆の砂糖煮)が供される。ありがとう。

午前の作業は、二手に分かれた。原田(いとた)の田んぼ畦畔の草刈りは、原田、山崎、若林さんの3人で。ソバ畑の草刈りは、久米さん、山本真由美さん(磐田市の地域おこし協力隊)、竹中さんとぼく。早く終った原田の3人組が応援してくれた。

益、正士さんちに疾ると、長野との県境近く水窪町から青乙女たちがご馳走を持って来てくれた。久しぶりに中谷さんが加わり、4人フレンチバーだ!

(益) 爽はぎ(粒あん、こはん、クリあんに蕎麦粉の4種)、しめサバ、サバの煮田揚げ(サツマイモとナスの天ぷら、枝豆、インゲンのゴマ和え、ハヤトウリの漬物にナシとマカロニソムのサラダ(これは、原江さんのは)

甘い物に目がない正士さんへ、毎回のじ遣いだ。安屋千づる、熊谷道子、竹中礼子、中谷今朝薫さん、いつもありがとうございます。

10月は原田さんの誕生日(七番)とちって、皆さハッピーバースデー

午後は、浅岡さんの水田跡の草刈り。昨日の雨で水が溜まったところは、長靴でぬいた原田さんと若林さんが刈ってくれた。久米さん、山本さんも参加。

途中、浅岡綾子さんが挨拶に見えた。70歳にならうだが、背筋はシャンとのび今ども簡単な草刈りはするという。

終って、坂上賢一さんの柿園の草刈り。たまたま娘さんが見えて、ペットボトルの茶をいただいた。

16時に作業を終え、隣りの旧浜北市(現、浜松市)の「あらたまの湯」へ。

(タ) ガーリックシュリンプ、ナスのショウガ和え、カブのサラダにユズのドレッシング、きのこの中華風マリネ、ナスとサツマイモの天ぷら。

お母さん、青山さん、山本さんと一緒にいただく。

今回、次の皆さんをいただいた。いつもありがとうございます。

- 北海道 佐呂間町の船木航二さんから、ホタテ貝柱にキクラゲのラー油煮
- 尾上美智子さんから「女泣かせ」純米大吟醸豆升
- 浅井春夫さんから、北魚沼産コシヒカリ10kg
- 内田美智子さんから、長崎のカステラ

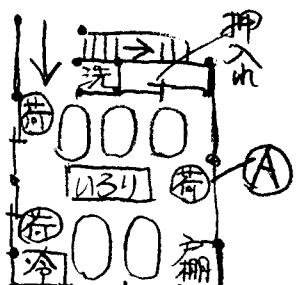
カステラに添えたメモに「正士さん、みなさんこんちは。私が阿寒湖に行ったのは1957年です。その頃、女性一人ではホテルに泊めてくれなかつたので、観光バスで隣り合わせた女性と一緒にました。正士さんに昔の絵ハガキを深山いただきありがとうございました。皆さんおけがありませんように。カステラは、私が長崎に行ったのではありません。スーパーの各地の銘菓にありました。思い出の地です」

10月25日(金)。午前、家のそば(ヨザ)の草刈り。みんながそばへこみより進んだ。

(金) カレーライス、パクチヨイの炒め物、フライド人参、大根と柿ときのこのサラダ。食事を終え、帰り支度を始めた時に事件が発生した。原田さんの貯布が無いといふ。最初に疑つたのは、昨日の「あらたまの湯」で落としたのではないかということ。電話して尋ねたが、拾得物の届けはないといふ。さあ大変、貯布にはお金のほかに免前証、数枚のカードが入っている。悪用されたら大変だ。警察に届け、各カード会社にカードの無効化を依頼する。これが大変だった。仲々電話がつながらない。ぼくも20年ほど前、多摩川園ラケットクラブで、他のプレーパーの人々にテニスバッグを持って行かれ、困ったことがある。皆も自分の荷物をあわせて調べるが、無い。その間に、1時間に1本の天王線の列車が2本通過した。

その時、ふと気がつくと、ぼくのシャツとズボンのポケット双方に貯布が入っているではないか。ごめん、ごめん。さもなんぞうなつたかいくら考えてもわからぬ。そこで、捜査に当たった検事の調書から読みとつてもうことにした。

「被告(ぼくのこと)は、一昨年から毎日一人で寝ていたが、今年2月から客間で皆と一緒に寝ることにした。客間の図は右のとおり。ベッドの大きさは12畳で、中央に畳一枚分の団炉や裏がある。当時、5人が団のよろな形に布団を敷いて寝ていた。荷物の置き場が充かにとれず、被害者と被告は、Ⓐのところに至いの荷物をくっつけて置いていた。被告は常々、床に置いた帽子の中に貯布や時計、Kタバコなどを置くせがあった。今般、帽子は二人の荷物の中間に置いてあった。



たまたま、何かの事情で被害者の貯布が帽子のそばに落ちたかしたのだろう。両名の貯布は、色といい、形といい、ふくらみ具合といい酷似していた。そのため被告は自分の物と思い込み、懷中に入れたものと思料される。

無断で他人の財布を懷中に入れたことは、明らかに窃盜と言わざるを得ない。しかし、被告に犯意が認められないこと、並びに被告が第一発見者として自ら差し出したことから情状を酌量し、罪ノ等を減じ、居間などの追放を命ずる。被告は以後、母屋で一人、寝袋にくるまって寝ること」ともあれ、原田さんとはじめ皆さんにとんだ迷惑をかけした。ごめんね。